

# 平成 26 年度 上越市教育研究会図画工作・美術部活動報告

部長 池田 隆 (美守小学校)

## 1 研究テーマ

「かかわる かわる つなぐ 造形教育」

## 2 研究の概要

本年度は、第 30 回新潟県美術教育研究大会プレ大会に参加し、「かかわる かわる つなぐ 造形教育」の考え方や実践を研修し合い、実践の方向について共通理解を図った。

## 3 研究の実際

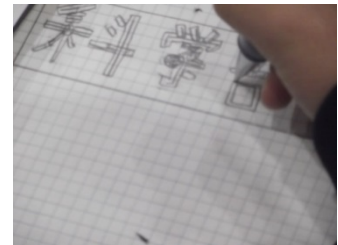
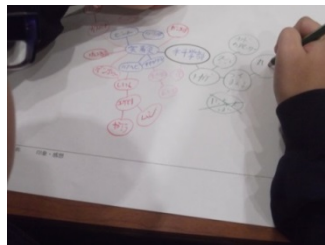
第 30 回新潟県美術教育研究大会プレ大会[11 月 13 日 (木)・会場妙高市立新井中学校]

### (1) 研究テーマの説明

研究テーマの「かかわる」とは、現実感のとぼしさを改善するため、コミュニケーションのあり方、素材とのかかわり、五感を使うかかわりを大切にしていこうことである。「かわる」とは、人と人の交流で自分を変え、交流で思考を深め、深まりから意識化を図ることである。「つなぐ」とは、子どもの意欲を生かし、学校という小さな社会から地域へつなぐことで、子どもの意欲が認められ、さらに意欲が高まることである。このサイクルが子どもの意欲を高めることになる。

### (2) 公開授業 1 年美術科「生活をデザインする」 授業者：齊藤岳洋教諭

本時では、制作に向けて新しい刺激を与える鑑賞活動から入った。プロと素人の作品の比較をし、作品から受ける印象に視点をもつように助言した。他者に与える「イメージ」があることに気付かせ、本時の課題を「自分のつくるロゴタイプにはどのようなイメージをもたせればよいか」とした。前時のアイデアスケッチでは参考資料のようにはならず、どうしたらよいか戸惑っていた。その解決方法として、イメージマップの交換を行った。複数人材の協力で連想されることばの羅列を行い、そこからロゴに込める大切なイメージをひとつに集約させた。はっきりしたイメージから、外形やフォントスタイルの見直しをすることで、アイデアスケッチに自信をもたせるようにした。グループは 4 人編制とした。あえて、他者の素材イメージを考えることで、思考のリフレッシュをねらった。



授業後の反省会で、授業者は、

1 年後、地域へ出て、地域の人と一緒に授業をしたいと意欲を示していた。参加者からは、中学校の授業を見ることは新鮮で、研究の方向が示されたので実践に取り組みたいとの意見が出された。

### (3) 指導・講評 講師：前上越美術教育連盟会長 池上 秀敏 様

図工美術教育では、子どもも先生も元気になる研究を進めてほしい。今日の授業では、子どもは笑顔で、先生とのやりとりでも笑顔が見られた。持ち味、自信をもって楽しみ、広い視野をもって専門を深めてもらいたい。学校は地域があることで成り立っている。地域の素材をいかに活用するかである。「かかわり」がキーワードになっているが、～ホット、アット、キット…熱く、驚き、確信めざして～という合言葉はどうか。見方を鍛え、じっくり描く造形活動にしたい。皆の実践が見合えるようにしていけるとよい。(要旨)

笑顔、自信、子ども同士や地域とのかかわり等の大切さについて学ぶ機会となった。

## 4 今後の課題

- 各自が今回のテーマを意識した実践を行っていく。
- 来年度の県美大会で、お互いの実践を見合え、語り合えるようにする。